

四万十市	岩田の一部
------	-------

打合せ経費

名称	規格	員数	単価	金額	備考
測量主任技師					着手・中間・最終
測量技師					着手・最終
測量技師補					中間
合計	(人件費)				

打合せ経費計上額 円

測量調査業務旅費交通費内訳書

1. 調査測量業務交通費

名称	数量(日)	単価	金額
技師・技師補の 内の最大値			
合計			

積算内訳

ライトバン損料	運転時間当り	193円 × 1時間 =	円
ライトバン損料	供用日当り		円
燃料代(ガソリン)		142円 × 2.7ℓ =	円
		合計	円

※ライトバン運転 1.0時間当りガソリン数量 2.7ℓ (高知県土木工事標準積算基準)

交通費計上額 円

2. 調査測量業務日当等

四万十市職員の旅費に関する条例に準じ計上しない。

作業区分の変化率の算定【岩田の一部】

実施面積	:	0.11	km ²			
一筆平均面積	:	272	m ²	(調査前)		
	:	444	m ²	(調査後)		
縮尺	:	1/500		視通条件	:	農Ⅱ
精度	:	乙1		筆の形状	:	不整形
傾斜条件	:	平坦		計画区からの距離	:	2.0 km

※表〇-〇は地籍調査事業費積算基準書より

変化率の算定

C工程 = ($\alpha_C \times Y_C$) × 実施面積
 $\alpha_C = 1.00$ 表1-13
 $Y_C = 1.05$ 表1-23
 = (1.00 × 1.05) × 0.11
 = 0.12

FⅠ工程 = ($\alpha_{FⅠ} \times \beta_{FⅠ} \times \gamma_{FⅠ} \times \sigma_{FⅠ} \times \varepsilon_{FⅠ}$) × 実施面積
 $\alpha_{FⅠ} = 1.00$ 表1-13
 $\beta_{FⅠ} = 1.25$ 表1-18
 $\gamma_{FⅠ} = 1.08$ 表1-19
 $\sigma_{FⅠ} = 1.00$ 表1-21
 $\varepsilon_{FⅠ} = 1.00$ 表1-22
 = (1.00 × 1.25 × 1.08 × 1.00 × 1.00) × 0.11
 = 0.15

FⅡ-1工程 = ($\alpha_{FⅡ-1} \times \beta_{FⅡ-1} \times \gamma_{FⅡ-1} \times \sigma_{FⅡ-1} \times \varepsilon_{FⅡ-1}$) × 実施面積
 $\alpha_{FⅡ-1} = 1.00$ 表1-13
 $\beta_{FⅡ-1} = 1.32$ 表1-18
 $\gamma_{FⅡ-1} = 1.12$ 表1-20
 $\sigma_{FⅡ-1} = 1.00$ 表1-21
 $\varepsilon_{FⅡ-1} = 1.00$ 表1-22
 = (1.00 × 1.32 × 1.12 × 1.00 × 1.00) × 0.11
 = 0.16

E工程 = ($\alpha_E \times \gamma_E \times \sigma_E$) × 実施面積
 $\alpha_E = 1.00$ 表1-13
 $\gamma_E = 2.65$ 表1-20
 $\sigma_E = 1.00$ 表1-21
 距離係数 = 0.00 表1-17
 = (1.00 × 2.65 × 1.00) × 0.11
 = 0.29

E工程 = 標準本数 × $\gamma_{FⅡ-1}$ × $\sigma_{FⅡ-1}$ × 実施面積
 (筆界点等本数) 標準本数 = 7,700 表1-7 (筆界杭:単価 304 円)①
 $\gamma_{FⅡ-1} = 1.12$ 表1-20 (アルミナンバープレート+止釘 45 円)②
 $\sigma_{FⅡ-1} = 1.00$ 表1-21

筆界杭 = 7,700 × 1.12 × 1.00 × 0.11 = 948.64 ≒ 949 本③
 アルミナンバープレート+止釘 = ③ = 949 枚④
 所要材料費 = ③ × ① + ④ × ② = 円⑤
 雑品費 = 0 × 0.5% = 円⑥
 杭代 = ⑤ + ⑥ = 円